

ゼロ・ウェイスト

— 地域から日本のごみ政策に変革を —

まとめ：ごみかん理事 小野寺 勲

2003年に、徳島県上勝町が日本で初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行いました。その後、福岡県大木町、熊本県水俣市がそれに続き、また神奈川県葉山町などいくつかの自治体ゼロ・ウェイストを目指しています。こうした事例を見ながら、地域発のゼロ・ウェイスト戦略の意義と可能性を考えるセミナーが、2011年7月27日、認定NPO法人 FoE Japanの主催で開かれました。主催者の了解をいただき、その概要を紹介します。

ゼロ・ウェイストでいこう

NPO法人 ゼロ・ウェイストアカデミー理事 松岡夏子 さん

■ 「ゼロ・ウェイスト」という考え方

「ごみ」から「資源」へ

廃棄物を「ごみ」として捉えている限り、減量という発想しか生まれません。「不用になった物」という見方をし、細かく分ければ、「資源」に見えてきて、無駄なく使ってごみにしないという発想が生まれます。

ゼロ・ウェイストの意義

- ① 脱焼却・脱埋立に向けた明確な目標を設定します。
- ② 挑戦的な目標が大胆な取り組みを引き出し、成果につながります。
- ③ ターゲットを定め、戦略的に取り組みます。

3Rを実施する上での指針は4L

- ① Local（地域主導）
- ② Low Tech（最新の技術に頼らない）
- ③ Low Impact（環境負荷が低い）
- ④ Low Cost（低コスト）

■ 徳島県上勝町での実践

「ゼロ・ウェイスト宣言」

2003年9月に、2020年までに焼却・埋立ごみをゼロにすることを宣言。

主な取り組み

- **生ごみは全量自家処理**
生ごみは、ほとんどの家庭がコンポストや「ゴミナイス」（電動式生ごみ処理機）で自家処理。
- **ごみは34分別**
ごみは町が一切収集せず、町民各自が町内唯一の日比ヶ谷ゴミステーション（年中無休）に持ち込んで、コンテナにて34種類に分別。分別は細かいほどわかりやすく、また再利用されやすくなります。資源化率は73%（2008年度）。
- **リユースの拠点「くるくるショップ」**
ゴミステーションに持ち込まれた、再使用可能な家具類、衣類、食器などを陳列し、無料で提供。ゴミステーション内に併設。
- **リメイクの拠点「くるくる工房」**
不用になった衣類、布、綿などをおばあちゃんたちがリメイクして販売。ゴミステーションに隣接。

■ 神奈川県葉山町での実践

「葉山町ゼロ・ウェイストへの挑戦」

2008年6月に「葉山町ゼロ・ウェイストへの挑戦」を発表し、2013年度末までに焼却・埋立ごみ量を半減し、2028年度末までにゼロ・ウェイストを達

成するという目標を掲げています。

主な取り組み

● 生ごみ自家処理の推進

非電動式の各種処理容器の普及を進めており、役場窓口で一律千円で販売。また、説明会、生ごみ交流サロン、役場前やスーパー前などでの展示会・実演会を実施。モデル地区の一色台地区（約100世帯）では、2009年夏から約8割の世帯が生ごみ処理に取り組み、燃やすごみを約4割減量。

● 新しいごみ分別収集方式

燃やすごみ、容器包装プラスチック、プラスチックごみについては戸別収集を導入。資源物は植木剪定枝、古布等を追加して21品目とし、埋立ご

みとともに、資源ステーションでコンテナにて収集。まずモデル地区で先行実施。一色台地区では、2010年4月から始めて、生ごみ減量分を含め、燃やすごみを約7割減量。牛ヶ谷戸地区（約360世帯）では、同年9月から始め、燃やすごみを半減。

● 指定袋制の導入

燃やすごみの収集では、半減目標値（329g/日/人）に基づき、週2回の収集で、1回につき、1人世帯5割、2～3人世帯10割、4人以上の世帯15割の「ごみ半減袋」を1枚無料配布し、それを超過した場合は、有料指定袋を購入してもらう制度の導入を計画中。100世帯で2009年9～10月に行ったごみ半減袋のモニター実験では、92%の世帯が毎回それに収まりました。

環境首都をめざす自治体のゼロ・ウェイスト政策

ただすのもり環境学習研究所代表 山田 岳 さん

■ 福岡県大木町

「大木町もったいない宣言」（ゼロ・ウェイスト宣言）

2008年3月に、2016年度までにごみの焼却・埋立処分をしない町を目指すことを宣言。

主な取り組み

● 大木町有機資源循環事業

焼却していた生ごみや、海洋投棄していた、し尿、浄化槽汚泥を「おおき循環センター“くるるん”」のメタン発酵プラントで発酵分解させ、バイオガスと液肥を回収。

バイオガスは発電と給湯に利用し、液肥は農家が主に水稻や麦の肥料として使って、とれた農作物を学校給食や家庭に供給しています。

「おおき循環センター“くるるん”」は、循環のまちづくりの拠点として2006年11月にオープン。環境学習室や、道の駅として農産物直売所、地産地消レストランなどを併設しています。

生ごみの分別により、2007年度の燃やすごみの量は2005年度に比べ44%減少。

● 資源ごみは22分別

資源ごみは22品目（生ごみを含む）に分別しステーション収集。

■ 熊本県水俣市

「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」

2009年11月に、2026年までにごみ処理を焼却や埋立に頼らないまちをつくることを宣言。

主な取り組み

● 生ごみは堆肥化

生ごみは、2002年から各家庭が生分解性プラスチック袋に入れてステーションに出し、それを市が回収して民間堆肥化施設で堆肥化。

● ごみは24分別

ごみは24種類に分別し、ステーション方式で収集。リユースびん（南九州統一焼酎Rびん等）も回収。

● レジ袋の削減

2009年11月に市内事業者（25店舗）、ごみ減量女性連絡会議、行政の3者で「レジ袋削減に関する協定」を締結、約半数の店舗でレジ袋有料化がスタート。

● 茶飲み場（給茶スポット）の設置

2009年から、ペットボトルや紙コップのごみを減らし、みなまた茶を美味しく飲んでもらうため、マイボトルやマイカップを持っていくと、その場でお茶を淹れてくれる茶飲み場の設置を推進。